

＜グループ協議 Aグループ：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）を活用した
こどもの姿の読み取り＞

- ・持ち寄った写真をもとに「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を読み取り、保育を振り返ったり、環境構成や援助について話し合ったりした。また、幼稚園教育要領の読み合わせを行い、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について学んだ。



～助言者御指導（抜粋）～

- ・教育要領解説には、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」ほぼ全てに共通して、他者や教師との信頼関係を基盤にした保育の展開が示されている。保育において教師の存在の大切さを見直し、幼児が体験するために必要な環境・援助や教師が行うべき手立てや声掛けについて、気付きを得ることができていた。今後も教師が学び続けていくことが大切である。
- ・こどもの育ちを10の姿で読み取ることで、10の姿は日々の保育の中で息づいていることが分かる。教師がこどもの育ちを捉え、次につなげることが大切である。

＜グループ協議 Bグループ：豊かな表現活動を展開するための知識や技能の向上＞

- ・講師によるワークショップやグループ別協議を通して、こどもたちが踊りや絵画などの表現活動を楽しむためには、教師が失敗を恐れずに、こどもたちと一緒に表現を楽しむことが大切であることを学んだ。



～画家 野村ちひろ氏 講話～（抜粋）

- ・絵をかくこと、作品を仕上げるということはとてもすごいことである。こどもが絵をかく際に様々な葛藤をしていることを受け止め、それに寄り添っていくことが大切である。
- ・頭の中で構想を練るために時間が掛かる子もいる。どんなことを考えているかを聞いたり、今の気持ちを色や形に置き換えたりし、「どんな気持ちで表現しても大丈夫であること」「失敗は大した問題ではないこと」を伝えていくことが、かくことへの苦手意識を軽減することにつながる。

～助言者御指導（抜粋）～

- ・豊かな表現をするためには健康的な心をもつことが重要である。教師自身もストレスをため込まず、心の健康を保つために十分な睡眠をとり、時間のゆとり以上に心のゆとりに意識を向ける必要がある。
- ・プラスの言葉のシャワーを普段からこどもたちにたくさん掛けていくことが、豊かな表現につながっていく。

<グループ協議 Cグループ：年齢や発達に合った遊びの進め方>

- ・ ごっこ遊びの実践資料をもとに、話し合いを行った。年齢や発達を押さえた上で、教師から遊びを仕掛けたり、こどもの声を聞いて環境を再構成したりするなど、遊びにおいて教師の役割の大きさや大切さについて学んだ。



～名古屋希副主幹 講話～

- ・ 環境設定の仕方、教師の関わり方について、こどもをよく見ること、こどもの声をよく聞くことが大切である。どんなことに興味をもち、やりたいことは何か、何に面白さを感じているか、どんな思いで遊びに関わっているかの視点で、こどもを見取るとよい。
- ・ 声掛けや素材選びなどに悩んでもまずチャレンジし、適切だったかどうかは、その後のこどもの表れから評価する。実践と振り返りの積み重ねが保育の引き出しとなる。

～助言者御指導（抜粋）～

- ・ 【3歳児】教師との信頼関係づくりが心の拠り所となる。教師がモデルとなって遊びに関わり、こどもの思いにタイミングよく応え、場を再構成する必要がある。
- ・ 【4歳児】興味・関心が高まり、遊びが広がってくる。友達が存在が大きくなるため、こども同士で扱える素材を取り入れた環境づくりが大切である。
- ・ 【5歳児】考える力や思いを伝え合う力が育っていく。今までの経験を活かして、素材を選択し、試行錯誤する環境づくりや共通の目的をもったグループ活動を取り入れるとよい。

<グループ協議 Dグループ：幼児理解と豊かな学びを支える保育の充実>

- ・ こどもの姿を細かく見取る方法として保育ウェブや5Wの活用の仕方を学んだ。また、保育の充実に向け、こどもの興味に寄り添った安心できる環境を具体的に出し合ったり、時期や実態に合わせたいいろいろな遊びについて話し合ったりして学ぶことができた。



～早河圭介副主幹 講話～

- ・ 遊びや生活の中で、豊かな体験を通して「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力が育まれている。
- ・ 日頃の保育の場面で、教師の予想とは異なる展開になることもあるが、幼児が環境に関わって生み出した活動に沿って、教師が柔軟に対応していくことが大切である。

～助言者御指導（抜粋）～

- ・ 先入観やジェンダー意識にとらわれず、広い視野をもち、一人一人のこどもがどうしたいのかを考えながら保育していくことが大切である。
- ・ 年齢や担当学年が違う教師同士で保育を語り合うことで、様々な視点から意見を聞くことができ、よりよい研修になったのではないかと。今後も主体的に研修を進めていけるとよい。